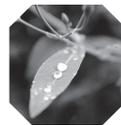




葉にもいろいろな種類があることを、見て、触って、においをかいで確かめます



「森のムツレ教室」が、5月から6月まで、4回、仙波河岸史跡公園で行われました。この教室に参加したのは、中央保育園の5・6歳の子供たち十九人。五感を使って遊びながら、さまざまな生き物と触れ合い、体で「生物界の共生」を学ぶ環境教室です。子供たちと自然との、橋渡しをしてくれる妖精ムツレは、スウェーデン語の「土壌」が語源。ムツレが、子供たちに教えたこと、伝えたことは、何だったのでしょうか。



雨の中、かっぱを着た子供たちが熱心に何かをのぞき込んでいます。視線の先に、葉の先から今にも落ちそうな滴や、クモの



つかまえた虫をみんなでじっくり観察



ムツレと元気にあいさつ「コリコーック！」(こんにちは)

「見て見て」と大切そうに見せ合います。晴れた日には、ルーペを使った観察。透明ケースの下から、ダンゴムシのお腹を見たり、ミミズの体の先端から口が見えたりする度、歓声が上がります。ボランティアで教室を主催した飯島希さん(脇田町)は、環境にかかわる活動を通じて「森のムツレ教室」に出会いました。「自然は楽しいことがいっぱいあるから好き、だから大切にしたい。そんな気持ちで芽生えればと願っています。6歳くらいまでは、ファンタジーの世界を信じている年齢。ムツレが教えてくれたことは、大人になっても覚えていてくれます」。この教室は、スウェーデン



ダンゴムシを下から見ると……

の野外生活推進協会が開発した環境プログラム。すでに五十年以上の歴史があります。最終日、子供たちが待ちに待ったムツレが登場。これまで習ったことを一緒に復習します。「三つの約束言えるかな?」。すぐに答えが返ってきます。「大きな声を出さない」「草や花は根っこから抜かない」「ゴミは持ち帰る」「そうだね。ダンゴムシは、葉っぱを食べてフンをするよね。フンは土の栄養になって、木が育って、葉が茂って、落ち葉になって、またダンゴムシが食べて……。これって、何て言うんだっけ?」。少し考えて、「くりかえし、くりかえし!」。この教室で、子供たちは、生物は共生し、人間もその輪の中にあることを、感じたようでした。



「ムツレさんに、笹舟もらったよ」



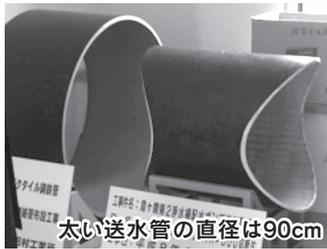
水の循環と光合成も学びました

浄水場で水の大切さを実感

6月5日、笠幡の霞ヶ関第二浄水場で、一般公開が行われました。職員の案内で、親子連れなどが、場内の設備の説明を受けました。参加者からは、「大きな施設の中はどうなっているのだろうと、いつも思っていました。仕組みが良く分かりました」「24時間管理しているとは知らなかった」など。ふだん見ることができない設備を熱心に見学していました。



説明に興味津々



太い送水管の直径は90cm

丹精込めた4,000株の菖蒲しょうぶ



休耕田を利用した笠幡菖蒲園

12回目を迎えた菖蒲まつりが、6月12日から9日間行われました。春先の天候不順が開花時期に影響しないかという、笠幡菖蒲愛好会の会員の心配をよそに、紫や白の花が咲きそろいました。同会会長の竹田文子さん(77歳・笠幡)は、「会員の高齢化が進んでいるので、畑の維持も大変。若い人の力を借りて、菖蒲を育て、咲かせる楽しみを一緒に味わいたいですね」と話してくれました。

ひま
ちと

ふ
お
と
こ
じ
ゆ
ー
す

ひま
ちと

行って 会って 体験
気になるイベントや人を紹介

小江戸ある寺

ひま
ちと

師弟で自転車国際レースに出場(川越工業高校)



果は、落車に
れました。結
みを語って
す」と意気込
を尽くしま
ります。全力
を尽くしま
みを語って
果は、落車に

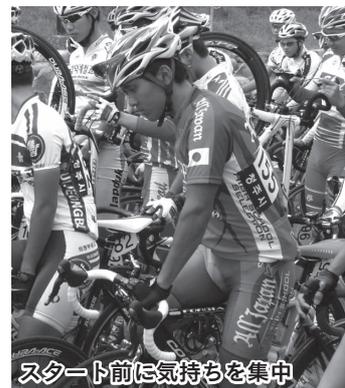
さが伺えました。
車競技の名門校らし
た」とのこと。自転
で車輪止めを製作し
いた駐輪場を何とか
しようとして、課題研究
級生と、雑然として
に聞くと、「市川さ
んが学ぶ機械科の上
級生と、雑然として
ききました。渋谷さん
ていことに気がつ
車が整然と並べられ
ていることに気がつ
すかったです。通学用の自転
車を訪れたとき、



市川さんは、一日五十〜六十キロメートル、休日は百キロメートルの練習をするそうです。それほど練習を重ねても大会前は、不安でいっぱいだったとか。出発前に「チームの一員としての責任があります。全力を尽くします」と意気込みを語ってくれました。結果は、落車に

アジアから六か国二十一チームの百余人りが参加。各チーム六人が、一日約百キロメートルを五日間走ります。監督を務めたのは、同校自転車競技部顧問の渋谷陽治教諭。自身もインターハイで入賞したことのある実力の持ち主で、今回、師弟で出場を果たしました。

6月17日から21日まで韓国で開催された、自転車ロードレース大会のチヨンジュMBC国際ジュニアロードレースに、市川貴大さん(川越工業高校2年生)が日本代表として出場しました。競技には、



スタート前に気持ちを集中

二回巻き込まれるなどのアクシデントに見舞われたものの、チームは十位、個人は六十九位。「ペース配分や力の出し方などの違いを知ることができ、初めての海外試合は、良い刺激になりました」。

普段、練習場所のときがわ町へ自転車で向かう市川さん。川越は、道路がきれいに舗装されていて、走りやすい反面、交通量が多いため、気を使うことが多いそうです。韓国で走った印象は、道幅が広く、走りやすかったです。